

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2020年2月)

1 概要

【内政】

- 15日, 新議会が発足した。下院では国民党のレマ議員が下院議長に就任した。
- 19日, ダ・シルベイラ次期教育文化大臣のパートナーである会計士マジヤ・シクレル氏は, 同教育文化大臣とアルゼンチンへ旅行に出る際にインターポールにより逮捕された。
- 20日, 調査会社Opcion社は5月10日に実施予定のモンテビデオ県知事選挙での投票意向に関する最初の世論調査結果を公表した。
- 21日, 拡大戦線(FA)と国民党の間で国営企業及び監査機関の役職に関する交渉が終了した。拡大戦線(FA)に割り当てられるのは合計34ポストになる見込み。
- 27日, 厚生省は2019年のウルグアイにおける出生に関する暫定データを公表した。

【外交】

- 5日, ウルグアイ政府は, 新型コロナウイルス感染症に直面している中国に対し強い連帯を表明した。18日, ウルグアイから王剛駐ウルグアイ中国大使に中国への医療物資が寄贈された。
- 10日, メルコスール・韓国FTA交渉会合がウルグアイで開催された。
- 12日, サンクレメンテ駐ウルグアイ・コロンビア大使の家族がコロンビア国内に所有する土地にコカイン生産施設が発見された。
- 13日, タルビ次期外務大臣はアラウージョ伯外務大臣と会合した。
- 14日, 在サンフランシスコ総領事館の開館式が行われた。
- 15日, ラカジェ・ポウ次期大統領は, 3月1日に行われる大統領就任式にマドゥーロ・ベネズエラ大統領を招待しないという決定は外務省によるものではなく自身によるものと明らかにした。
- 18日, タルビ次期外務大臣はブエノスアイレスでソラー亜外務大臣と会合した。
- 20日, タルビ次期外務大臣はリバス・パラグアイ外務大臣と会談した。
- 29日, ラカジェ・ポウ次期大統領はフェリペ6世・スペイン国王と会談した。

2 本文

【内政】

1 国民党を離党したモレイラ・コロニア県知事の, 同県知事選への同党候補として出馬の見込み

4日, 国民党のコロニア県党大会で, 2019年10月に性行為と引き換えにインターンの更新と引き換えに性行為を強要したと推定される音声が流出したことで国民党を離党したモレイラ・コロニア県知事が5月10日に行われる県知事選挙の候補の一人として発表された。同知事への犯罪の有無に関し調査が進んでいたが, 同決定は, コロニア検察庁が同コロニア県知事に対する調査を終えると決定した数時間後に成立した。国民党には原則として同コロニア県知事の出馬を阻止する意向はないが, 同党理事長であるベアトリス・アルヒモン次期副大統領は, 党が彼を支持しないよう働きかける意向を示した。

2 新議会の発足

15日, 新議会が発足した。拡大戦線(FA)は単独第一党を維持するが, 上院及び下院の両院で15年ぶりに議席過半数を割り込んだ。議席過半数はラカジェ・ポウ次期大統領率いる, 国民

党、コロラド党、カビルド・アビエルト党、独立党、人々の党の5党で構成される連合の手にわたる（上院17議席、下院56議席）。各党の議席は上院で拡大戦線（FA）13議席、国民党10議席、コロラド党4議席、カビルド・アビエルト党3議席。下院では拡大戦線（FA）42議席、国民党30議席、コロラド党13議席、カビルド・アビエルト党11議席、独立党1議席、人々の党1議席、環境推進派（PERI）1議席。国民党のレマ下院議員が下院議長に就任した。

3 次期教育文化大臣のパートナーがマネーロンダリングの疑いで逮捕

19日、ダ・シルベイラ次期教育文化大臣のパートナーである会計士マジヤ・シクレル氏は、同教育文化大臣とコロニア港からブエノスアイレスへ旅行に出る際にインターポールにより逮捕された。同氏はマネーロンダリングの罪でパナマ司法当局に告訴されており、同当局はブラジルの建設会社オデブレッチ社が公共事業と引き換えに政治的指導者への賄賂支払いに利用したウルグアイ企業5社と同氏の関連を指摘している。20日、同氏に対し60日の自宅軟禁、出国禁止とパスポートの引き渡しを命じられた。今後パナマ政府が同氏の引き渡しを正式に要求する可能性が高い。

4 モンテビデオ県知事選挙の投票意向に関する世論調査

20日、調査会社Opcion社は5月10日に実施予定のモンテビデオ県知事選挙での投票意向に関する最初の世論調査結果を公表した。ラッフォ連立候補への投票意向30%に対し、拡大戦線（FA）への投票意向の合計は56%に達し、マルチネス候補29%、ビジャーラ候補14%、コッセ候補13%となっており、拡大戦線（FA）は連立与党に対し26ポイント優勢となっている。

5 拡大戦線（FA）と国民党が国営機関等の役職交渉で合意

21日、拡大戦線（FA）と国民党の間で国営企業及び監査機関の役職に関する交渉が終了した。拡大戦線（FA）に割り当てられるのは合計34ポストで、電話公社（ANTEL）、植民公社（INC）を含み、選挙裁判所に関しては代表を現在の割合で維持する見込み。

6 2019年ウルグアイにおける出生数

27日、厚生省は2019年のウルグアイにおける出生に関する暫定統計を公表した。最終的な数値は3月末に公表される予定。保健機関によって登録された統計によると、2019年には37,448名の出産が登録され（前年比2,671名減）、特に24歳未満の女性の年齢層で減少した。その他、10代の妊娠数、早産や低体重児数、流産が減少（1.5%）し、指標が改善した。この結果は、思春期の年齢層に対し予防策を通じて望まない妊娠の減少を促進してきた政府の施策に結びついていると考えられる。

【外交】

1 中国への医療物資の寄贈

5日、ウルグアイ政府は、新型コロナウイルス感染症に直面している中国及び同国民に対し強い連帯を表明した。コロナウイルス犠牲者の家族への哀悼と、困難な状況を克服するために中国政府との協力の意を表明した。

18日、ウルグアイ政府は、中国における新型コロナウイルス感染症との戦いを支援するため、ベルガミノ外務次官を通じて王剛駐ウルグアイ中国大使にウルグアイから中国への医療物資を寄贈した。寄贈には厚生省、ラバジェハ県、サン・ホセ県及びパイサンドウ県庁やConaprole社、

URUFOR社、SANFER社といった企業から提供された医療物資が含まれていた。寄贈の際、ベルガミノ外務次官は、感染拡大を防止し感染者に適切な治療を提供するために中国で行われている取り組みと対策を強調し、優れたレベルの二国間関係並びにウルグアイの中国と同国民への強い連帯感情を強調した。

2 アメリカ・ビジネス・フォーラム

7日、ラカジェ・ポウ次期大統領はプンタ・デル・エステで開催されたアメリカ・ビジネス・フォーラムに出席し、ウルグアイの現状及び将来の計画について、メルコスール規定の中で特にメルコスール域外の国との二国間FTAの実現に関するものをより柔軟にする必要性を強調した。また、政府が対処しなければならない課題として、特に市民の安全について指摘した。

3 メルコスール・韓国FTA交渉に進展

10日、メルコスール・韓国FTAの新たな交渉会合がウルグアイで開催された。メルコスールの交渉担当者及び韓国側の交渉担当者によれば、「国際貿易における最近の規制動向と調和した包括的合意の具体化」により2020年半ばに交渉が終了する見込み。

4 駐ウルグアイ・コロンビア大使の家族が所有する土地にコカイン生産施設

12日、コロンビア警察当局はボゴタ北東部にある非合法のコカイン生産施設を捜索したところ、サンクレメンテ駐ウルグアイ・コロンビア大使の家族が所有する土地の一部であることが分かった。同大使は同土地はジャガイモ生産者に貸し出していると説明し、自身及び家族の同施設への関与を否定した。

5 タルビ次期外務大臣とアラウージョ伯外務大臣の会合

13日、タルビ次期外務大臣はアラウージョ伯外務大臣と会合した。両国外相は、ウルグアイ側の提案した、治安、教育、福祉分野における国境地域での経済的協調を目的とした国境を接する町への「経済特区」設置について合意した。また、同会合ではメルコスール全加盟国の意見の一致がなくても加盟国が第三国との協定に署名できるように、メルコスールの柔軟化についても提起された。

6 在サンフランシスコ総領事館の開館

14日、在サンフランシスコ総領事館の開館式が行われた。同総領事館の開館は、特に国内のソフトウェア産業にとって北米市場が重要であり、同分野の輸出の65%が米国に向けられていること、シリコンバレー地域へ移住するウルグアイ人起業家が近年増加していることが考慮されており、ウルグアイをグローバルサービス提供のための戦略的パートナーとして紹介し、サンフランシスコに本社を置く大手テクノロジー企業との関係を強化することを目指している。

7 ベネズエラ、キューバ及びニカラグアの大統領を大統領就任式に招待しない決定

15日、ラカジェ・ポウ次期大統領は、3月1日に行われる大統領就任式にマドゥーロ・ベネズエラ大統領を招待しないという決定は外務省によるものではなく自身によるものだと明らかにした。ラカジェ・ポウ新大統領は、「私(ラカジェ・ポウ次期大統領)は独裁者であるマドゥーロ氏は就任式に出席してほしくない。個人的な決定であり、私に責任がある。外務省ではなく、決定したのは私である。」と述べた。マドゥーロ・ベネズエラ大統領の他、ディアスカネル・キューバ大統領及び

オルテガ・ニカラグア大統領も就任式に招待していない。同決定に関し、タルビ次期外務大臣は、「ラカジェ・ポウ次期大統領が明らかにしたとおり、同次期大統領による決定である」と表明し、このことは別として、ウルグアイはこれらの国と外交関係があるため、外交団は就任式に招待されていると述べた。

8 ソラー亜外務大臣との会談

18日、タルビ次期外務大臣は、ブエノスアイレスでソラー亜外務大臣と会合し、メルコスール、地域政策及び二国間関係など、両国にとって重要な議題について議論したと述べた。ソラー亜外務大臣との会合に関して、タルビ次期外務大臣は、「地域の政治情勢、組織の役割及び急増した様々な団体」について議論したと述べた。

9 リバス・パラグアイ外務大臣との会談

20日、タルビ次期外務大臣はリバス・パラグアイ外務大臣と会談した。タルビ次期外務大臣はツイッターで、活発で世界に統合されたメルコスールの優先事項及び生産ライン強化のための加盟国間の効果的な統合について認識を共有したと述べた。

10 フェリペ6世・スペイン国王との会談

29日、ラカジェ・ポウ次期大統領はフェリペ6世・スペイン国王と会談した。デルガド次期大統領府長官、タルビ次期外務大臣、ゴンサレス・スペイン外務大臣が同席した。その後、昼食を摂りながらタルビ次期外務大臣及びゴンサレス・スペイン外務大臣による外相会談が行われ、メルコスール、ベネズエラ問題及びウルグアイ・スペイン間の二国間協力の強化について話し合われた。一方、ラカジェ・ポウ次期大統領はフェリペ6世・スペイン国王を自宅に招き、ウルグアイの伝統的なアサードでもてなした。

同日、フェリペ6世・スペイン国王及びゴンサレス外務大臣はバスケス大統領とも会談した。両名のみによる会談のほか、ニン・ノボア外務大臣及びゴンサレス・スペイン外務大臣、ゴメス・ジェラ駐ウルグアイ・スペイン大使、ブスティージョ在スペイン・ウルグアイ大使を含む二国間会議が行われた。

【要人往来】

○往訪

- 13日 タルビ次期外務大臣 ブラジル訪問(アラウージョ伯外務大臣との会談)
- 18日 タルビ次期外務大臣 ブエノスアイレス訪問(ソラー亜外務大臣との会談)
- 20日 タルビ次期外務大臣 パラグアイ訪問(リバス・パラグアイ外務大臣との会談)

○来訪

- 28日～ フェリペ6世・スペイン国王、ゴンサレス・スペイン外務大臣

(了)